

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
 例会日 毎週月曜日 12:30～
 例会場所 シェラトン都ホテル大阪 3F
 事務局 大阪市天王寺区石ヶ辻町2-8
 〒543-0031 クレアツィオーネ上本町 704号
 TEL : 06-6772-2320
 FAX : 06-6772-2327
 E-mail : hcrc@at.wakwak.com



会 長 三 木 武 志
 会長エレクト 小 川 高 弘
 副 会 長 百 濟 洋 一
 幹 事 佐 藤 三 千 秋
 会報委員長 岩 崎 史 郎

Be a gift to the world

世界へのプレゼントになろう

2015～2016 年度 国際ロータリー会長 K. R. ラビンドラン

第 2012 回例会 平成 28 年 6 月 13 日 (月曜日) 第 39 号

本日の例会 6月13日(月) 第2例会
 ◎ソング 「限りなき道ロータリー」
 ◎卓 話 『二度目のイニシャルスピーチ』
 担当：小川 高弘会員
 ◎本日の献立 おまかせ御膳
次回の例会 6月20日(月) 第3例会
 ◎会長年度末挨拶 三木 武志会長
前回の例会 6月6日(月) 第1例会
 ◎ゲスト 神峰山寺 御住職(高槻西RC)
 元青少年交換委員長 近藤 眞道様
 国際ロータリー2660地区 IM4組
 ガバナー補佐 梅澤喜八郎様
 ガバナー補佐エレクト 林 芳繁様
 ◎ビジター 大阪平野RC 西村 聡 様
 大阪東RC 森 良夫 様
 元青少年交換留学生 佐藤 嘉晃様

会長挨拶 三木 武志

皆様こんにちは、6月に入り先日梅雨入りしました。しばらくの間は、じめじめした日が続くと思いますが、食中毒など健康管理には十分お気を付け下さい。
 そして本年度も今月で最終です、本日は梅澤ガバナー補佐様並びに林ガバナー補佐エレクト様を迎えての新旧クラブ協議会と、それに続いての理事会が御座います。理事役員の方々には長時間になると思いますが宜しくお願いします。
 次年度は我がクラブからガバナー補佐エレクトを地区に送りだしますので皆様宜しくお願いします。
 なお明日は東輪会ゴルフコンペがありますので合わせて宜しくお願いします。

出席報告 金子 委員

本日の会員数 24名
 本日の出席者数 16名
 本日の出席規定適用免除会員 10名
 本日の出席率 76.20%
 5月9日の修正出席率 95.45%

ニコニコ箱報告 長堀 副SAA

本日、卓話にお越しいただきました、神峰山寺 御住職近藤 眞道様より、ニコニコにと10,000円頂きました。
 三木会長 最後の月になりました。残り宜しくお願いします。
 佐藤幹事 梅澤様、林様、本日の新旧クラブ協議会御出席ありがとうございます。また近藤様本日の卓話、よろしくお願ひします。
 ゴルフB級会 ゴルフB級会の会費をニコニコさせて頂き会員一同 ます。

6月のお祝い

- 入会記念日 近藤会員
- 会員誕生日 長堀会員
- 夫人誕生日 瀧田 房江様
- 創業記念日 近藤 藤原 宮田 岩橋 (各会員)
- 5月の内祝いニコニコ 累計 577,500円
- 5月のニコニコ箱 41,000円 累計 1,052,100円

幹事報告 幹事 佐藤 三千秋

1. 本日、例会終了後、新旧クラブ協議会、引き続きまして新旧理事会を3階、「葛城の間」にて開催致します。梅澤ガバナー補佐様、林ガバナー補佐エレクト様、よろしくお願ひいたします。新旧理事役員、各

委員会委員長の皆様にはよろしくお願いいたします。

2. 明日、鳴尾カントリークラブで東輪会ゴルフコンペが開催されます。ご参加いただきます会員各位には、ご奮闘よろしくお願いいたします。
3. 6月11日(土)の青少年交換来日学生スピーチコンテスト及び、来日学生・派遣学生 歓送会には三木会長と、金子会員ご家族、岡本青少年交換プログラム委員長が参加されます。よろしくお願いいたします。

卓話 RIJYEC アドヴァイザー 近藤 眞道様 《ロータリー青少年交換プログラム とは 何か?》

ロータリーの青少年交換プログラムは数あるロータリーのプログラムのうちでも相当に手間暇のかかるプログラムです。

海外からやってくる学生たち、そのほとんどは日本語が話せません。また食事は日本食が合

わない、学校にいても授業はわからない、自宅ではもっぱら Facebook やメールで派遣国の友人とばかり連絡を取り、ホストファミリーとは何も話さない。ホストファミリーがせっかく日本にやってくるので、日本文化を知ってもらおうとお寺などに連れて行くが全く興味を示さず、日本の漫画をみているばかり。数か月たってやっと日本に少し慣れてきたら今度は友達と遊びまわっている。挙句のはて、「こんな学生は即刻帰国」とホストファミリー、ホストクラブ、ホスト地区から通告され、早期帰国、となる。この種の問題は何も来日学生だけにとまらず、海外の派遣先でも同じことが起こっており、海外派遣地区から「この日本からの学生はダメにつき、日本に帰国さす」ってことも毎年起こっています。

ロータリー青少年交換プログラムのお世話は実に大変。かつて、ある青少年交換委員のロータリアンの方がこうっておられます。「ロータリー青少年交換来日学生、彼らは台風のようなもの。周囲の多くの大人、ロータリアン、ホストファミリーその他諸々の大人たちを、毎日毎日、色々な問題に巻き込み大騒動にさせ、挙句の果てに6月には「私はなにもしていません」ってな顔で帰国していく。まったく、台風です」と。

そうです、ロータリー青少年交換は実に大変なプログラムです。

では、ロータリー青少年交換プログラムとはいったい何なのでしょう。

国際ロータリーのCOP、すなわち「ロータリー章典」にはこのように規定されています。「ロータリー青少年交換プログラムは、海外の人々と交流し、異文化を体験し、

外国の生活のあらゆる側面を直接学ぶ機会を青少年に提供している。異文化出身の学生との幅広く親密な交流を通じて、受け入れクラブ、ホストファミリー、そして地域社会全体も豊かになる。このプログラムは、青少年の国際理解と親善の精神を育むものである」

この文章、まことにごもつともなことが書かれてあります。ただ、この主旨はロータリー青少年交換だけでなく、他のプログラム、たとえばロータリー財団奨学生や米山奨学生、あるいはロータリー以外の種々のホストファミリー制度やプログラム、さらに各種奨学金制度、いわゆる『留学制度』でも同じ趣旨で十分納得できます。

じゃあ、ロータリー青少年交換プログラムの特異性、その特色はいったい何なのでしょう。私は幸いにも、もう25年ほどロータリー青少年交換プログラムに関係させてきてもらっています。今年我が家では27人目の来日学生、フランスから来ている、フロルが我が家に住んでいます。また、此の25年のあいだに世界の多くのロータリアンにお目にかかってきました。それらのロータリアンから、多くの事を学ばせていただきました。その中に「ロータリー青少年交換はこうあるべきである」ということを私が教えてもらった方がおります。そのエピソードを皆様にお話ししましょう。

今からもう20年ほど前のことです。

当時私はD2660地区青少年交換委員長をしていました。そして私の **Rotary Club** からカナダのある地区に16歳の男子を派遣しました。彼の名前は春樹です。派遣後一月ぐらいたったと記憶しています。彼の受け入れ地区委員長から「即刻、春樹を日本に送り返す。」と連絡がきました。その理由は春樹がホストファミリーで大変な問題を起こしてしまったからです。その家のお風呂のお湯を出したまま、自分の部屋に戻ってギターに夢中になってしまったのです。もちろん、お湯はバスからあふれ出し、お風呂場から漏れ出しました。悪いことにそのバスルームは3階にあり、あふれ出したお湯は階段を伝って階下の部屋を水浸しにしまいました。さらに悪いことに、そのホストファミリーは自宅を改装したばかりでした。

委員長はさらにこう付け足しました。「春樹は英語も喋れない。また何を考えているかもさっぱりわからない。今回の事件の他にも色々ある。これらの状況から判断し、春樹を即刻日本に送り返すしかない。」

私たちは大変驚きました。今度は私たちが早速春樹のホストファミリーと直接にコンタクトを取り、派遣学生が大変な迷惑をかけて申し訳ない、と申し上げました。

その時、春樹のホストファミリーのお父さんから次のような返事が即刻かえって来ました。「なぜ、日本の皆さんは春樹が今回やったことを知っているのか。この「バスお湯あふれ事故」は、家族で相談して一切家族以外には喋らないことにしていた。もちろん春樹のホストロータリークラブにも言わないようにしている。今回の事故はあくまで私たち家族の問題である。春樹は私の家族の一員。

私たち夫婦の息子です。春樹ぐらいの若い子供は時々色々な過ちをするものです。」

さらに数日後、このホストファザーより追加で次のメールがきました。

「今回の“バスお湯あふれ事故”が家族の外に漏れたのは、どうも家内が近所の人に喋ったことが原因のようだ。しかし、先のメールでも言ったように、今回の事故は私たち家族の問題である。日本の御両親から損害を弁償したい、との申し出もあるが、これは受けることができない。春樹が私の家庭にいる限り、春樹は私たち夫婦の息子であり私たち家族の一員であり私達が解決する」と言うものでありました。

私は、このホストファミリーから「ロータリー青少年交換」とは何か、を教えてもらいました。ロータリー青少年交換は「異国の文化伝統を勉強する」などの単なる「海外留学制度」とは根本的に異なった高い理念を持つ制度である、ということを私は気付かされました。

すなわち、ロータリー青少年交換は、「私達の子供、ロータリーの子供を私達ロータリーとロータリアンが互いに協力してロータリアンがそれらの子供の本当の親となって、立派な人間に育てる事。文化、習慣、宗教は異なっている、互いに愛し、尊敬できる立派な国際人をロータリアンが力を合わせて育てること、それが、ロータリーの青少年交換の理念」、ということです。即ち世界のロータリアンがロータリーの子供たちを育てる「ロータリー子供育てプログラム」ということです。

ロータリー青少年交換の歴史をみてもこのことは良くわかります。

ロータリー青少年交換学生はロータリアンの子弟が参加できるプログラムです。ロータリーの青少年プログラム以外の他の奉仕プログラムでは、財団奨学生を始め各種の奉仕プログラムはすべてロータリアンが関係していない組織や人々を対象としたプログラムです。すなわちロータリー奉仕活動の対象はロータリー関係者以外を対象としています。ロータリー青少年交換プログラムが世界で一番初めにおこなったのはシカゴのロータリー本部ではなく、たしかヨーロッパ域内のロータリー子弟交換が最初と聴いています。すなわちロータリアンの子供同士をロータリアン同士で交換した、のが始まりとこのことです。いわゆる、ロータリアンの私の子供を海外にいる私のロータリアンの友人の所に一年間預け、その替りにその友人ロータリアンの子供を私が一年間あずかって我が子として育てる、即ちロータリアン友人同士が自分たちの子供を我々両家族で育てる、「子育て」を協力して行う、のがロータリー青少年交換の始まり、だったので

現在のロータリー青少年交換はロータリアン以外の子弟が多く、いや、ロータリアン以外の子弟の子供たちの方が多く、「高校生の留学制度・ホームステイ制度」とのイメージが強くなっていますが、よくよく此のロータリ

ー青少年交換プログラムを観てみると、このプログラムが「留学制度」でないことがよくわかって頂けると思います。

まず、ロータリー青少年交換と各種留学制度が全く違うのは、各種留学制度では受け入れ学校の入学試験・資格試験にまず合格しなければ入学できません。ロータリー青少年交換はそれら資格試験なしに、高校に通学させてもらっています。さらに、来日受け入れする子供たちは、事前に受け入れる子供をホストファミリー、ホストクラブが事前審査はしておらず、派遣先から一方的に送られてきます。いわば「あてがいぶち」です。また、日本入国ヴィザ取得についても、日本外務省の特別許可があり、煩雑なたとえば「来日学生資格証明」や個人の預金残高まで日本政府に申請しなければならないそれら留学生の「身元引受人保証」などありません。

これらから見ても、ロータリー青少年交換は留学生制度とはまったく違う理念によって成り立っているものです。

その「理念」こそが、「子育てプログラム」すなわち「ロータリアンのロータリアンによる子育てプログラム」なのです。

これが、わかれば、具体的に青少年交換プログラムをどのように、地区で、クラブで、ホストファミリーで、ホストファミリーと言うより「里親」と言った方がよく理解できるとおもいますが、その里親が里親として、どのように、このプログラムを運営していけばよいかは容易にご理解して頂けると、思います。

要は、極めて簡単。「自分の子供ならどうするか」を常に考えて行動すればいい事です。一年間子供、それも思春期の厄介な子供、その彼らを「自分の子供」と思って、育てればいいのです。海外から来ている子供たちは、一見日本の高校生と比べると「大人」にみえます。でも、まったくそうではありません。日本の16、17歳の子供と彼らはいっしょです。私は27人の海外の子供たちを預かりました。たしかに、海外の子供、それも欧米からやってくる子どもは「理屈が上手」です。日本の大人に議論を挑んでみます。それは、欧米での教育方法が個人意見発表を重視していることに依るものですが、彼らの中身はやはり16、7才の本当に愛すべき子供達です。

来日学生は色々な問題を起こすのが当たり前。学校に行かない、メールばかりやっている、食事を嫌がる・・・里親サンたちは大変、でも、彼らを自分の子供、と思ったとたんにか心のつかえは取れます。「ロータリーからあずかっている留学生、下宿人」と思うからしんどいのです。来日学生の中には、とても利発な子供もいれば、それなりの子供、あるいは、時には精神的に病的ではないかと思われる子供、ちょっと **Disable** ではないか、とも思える子供もきます。そのような子供が貴女方皆さんのお宅にやって来たときは、まず、緑と思って(なにせ、私は

坊さんなので、この言葉をすぐに使ってしまうのですが・・・)「これもしようがないか、これも仏縁や」とあきらめてください。あきらめてしまうと不思議に道が開けます。そして、来日してから一年後「おとうさん、お母さんありがとう」といってくれば本望です。

今度のソウルでは国際大会があります。その青少年交換プレコンで、私はファシリテーターをさせられます。セッションでプレゼンテーションをしなければなりません。そのテーマをRIの青少年交換委員会の委員で、私の永年の友人、ドイツのZellerから昨年の11月私のプレゼンについて、要望がきました。

その要望というのは:

「RIの今までの調査によると、日本への派遣学生のほとんどが事前に日本語が出来ないにも関わらず、交換年度の終わりにはこの難しい日本語習得も含め有意義な学校生活であった、と報告されている。今回のソウルでの大会で、「なぜ、日本ではこのような良い結果がうまれるのか、そのためにどのような方策を日本ではとっているのか、世界の青少年交換関係者に教えてもらいた」との要望でした。

この要望を受けて、昨年私は日本各地区の委員長さんに、日本語習得にどのように各地で対処されているかをききました。その結果、それぞれの地区で大変な苦労をなさっていることがわかりました。もちろん、来日前に日本語は是非勉強してきてほしい、と思っておられる地区も多くあります。しかし、全34地区からレポートは頂戴していませんが、日本語未習得が受け入れ拒否の条件になっている地区はありませんでした。

特に私の心を打ったレポートは四国D2670の中村委員長からのレポートでした。

「当地区の受け入れ学生はごくまれに来日前に基本的に日本語を学んでくるような生徒もおりますが、大半が来日時ほとんど全く日本語が話せません。しかし、それを問題視はしませんし、滞在の障害とも感じません」とおっしゃっています。ただ、その日本語が出来ない来日学生にホストファミリー、地区、クラブそれぞれのレベルで彼らの日本語習得のため大きな努力は払っておられます。そして、中村委員長のレポートの最後には「来日学生の性格や感性にもよりますが通常、約半年で日常会話程度は可能になり、日本文化への興味を増す好循環につながっています。帰国が近づくとほぼ全員が日本ファンになり、帰国を嫌がります。本人のやる気とホストファミリーやクラブの親身な対応あれば言葉の壁は乗り越えられますし、それがこのプログラムの目的の一つだと思っています。」

そうです、中村委員長さんは、ロータリー青少年交換が「子育てプログラムである」ことをよく認識されているのです。中村委員長だけでなく、日本には青少年交換の根本理念を理解されているロータリアンがたくさんおられるとおもいます。それらの人々の親としての献身的

な努力が日本にくる世界の子供たちを日本ファンにそして立派な国際人をそだてているのです。

The program instills in young people the concept of International understanding and goodwill.

このロータリー青少年交換プログラムは世界の青少年若者の心の中に国際相互理解と善意の心を育むのである。Rotary Code of Policy, 41.060.

ロータリー章典第41の060号

そうです、日本の青少年交換に携わる殆どのロータリアンがこの理想を実践されているのです。

注:2016年5月20日全国青少年交換研究会にての講話

2015~2016年度 第12回定例理事役員会議事録

日時 平成28年6月6日(月) クラブ協議会終了後
場所 シェラトン都ホテル 3階 葛城の間

出席理事

三木武志、小川高弘、百済洋一、佐藤三千秋、中村 徹、
岩橋竜介(欠) 瀧田浩彦、浅野光男(欠) 岩崎史郎(欠)
金子勝信、佐井義昌(欠)長堀哲矢 計8名

決議事項

1. 熊本・大分地震の義援金(独自の義援活動)の件
台湾鹿港RCより義援金20万円送付の申し入れあり
継続審議
2. 清水会員、退会の件 承認
3. 規定審議会での、変更事項を会員にアンケートの件
*入会金の件
*例会 月2回以上の件
(IM4組で共同歩調の話あり) 継続審議
4. 室内イベント用、カメラ購入の件 必要に為 承認

2016~2017年度 第2回事前理事役員会議事録

日時 平成27年6月6日(月) クラブ協議会終了後
場所 シェラトン都ホテル 3階 葛城の間

出席理事

小川高弘、佐井義昌(欠) 金子勝信、中村 徹、
岩橋竜介(欠) 瀧田浩彦 藤原英夫、佐藤三千秋、
百済洋一、浅野光男(欠) 岩崎史郎(欠) 岡本慎一 計8名

決議事項

1. 次年度確認事項
*予算の件 (別紙予算案) 承認
*プログラムの件 承認
2. 公德学園の件(補助金 今後の段取り)
公德学園に7月訪問予定(会長・幹事・社会奉仕委員長、前年度親睦委員長)
3. IMRDの件
IMRDの趣旨説明のために、IM4組の全クラブを7月に訪問する予定。
4. 規定審議会決議事項についてのアンケートの報告
継続審議

